

2025 年度 愛輝幼稚園 自己評価結果公表シート

学校法人 大阪福島キリスト教学園
愛輝幼稚園

1. 本園の教育目標

お友だち、保護者、教諭、地域の方という、子どもたちが関わる人々、そして自分自身を大切に思うキリスト教の愛の精神を保育の源泉とし、決まった型に押し込めるのではなく、一人ひとりとじっくりと接すること。また、進んで身近な人とかわかり、愛情や信頼感、自分以外の人に共感する力を持ち、社会生活における望ましい習慣や態度を身につけ、子どもたち一人ひとりが持っている発達する力を引き出す援助をねらいとする。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

評価項目に沿って、自己評価および、教諭同士が相互に評価することによって、幼稚園教諭としての資質を高める。また、子どもたちへの安全への配慮、家庭との連携も深め、充実した保育を確保して行く。

3. 評価項目の達成および取組状況

評価項目	取組状況
教諭の資質・指導能力、および保育内容の向上を図る。 ・保育の計画性について	・幼稚園教育要領、キリスト教保育誌を用いて、年、学期、月、週、日毎に保育案を作成し、指導も交えつつ協議を重ね、検討→実践→報告→反省という流れを持って、今、目の前にいる子どもたちに、何を提供すべきかを考えながら行った。また、日々の報告会には園長も入り、実践の報告や振り返りの時に、指導も交えながら次回の計画の更なる練り直しをし、常により良いものとなる様、目指した。内容としては“幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿”と、更に「知・徳・体」に区分し、才児別に年間の目標をたて、それが達成できる様に細かく、ねらい（ねがい）を定めていった。 また、各行事(運動会や作品展、発表会等)を通して、保護者の方が子どもたちの成長を感じて頂くことが出来るように、と、行事の内容も綿密に話し合い、計画して来た。
・教員の研修について	・各教諭が大阪府私立幼稚園連盟、大阪市私立幼稚園連合会、キリスト教保育連盟、各種民間業者の行う研修に参加するよう心掛けた。コロナ禍以降、多くの研修会がオンライン等に置き換えた形のものにはなっていたが、積極的に参加し、報告書も作成し、他の教員も回覧することにより、情報、成果の共有化も図った。

・外部講師による研修	・絵画制作および運動に関しては外部の講師を招き、子どもたちに直接指導をしていただくことに併せて、教師に向けての園内研修会も行った。また、日頃の保育の中において疑問に思ったこと、困難に感じたことに対しての専門家からの指導もいただき、子どもたちへより適切な指導をする事が出来る様、心掛けた。 また、“コーディネーション”を取り入れ、更に充実した園生活を送れる様にと、引き続き教育の充実を図った。(専門資格所有講師による直接指導で、子ども達の体幹や神経系の発達を促すもので、動きの統合性や機敏性の向上が期待出来る。)
・園内研修	・上記の、教師に向けての絵画実技指導や、体育実技指導に加え、大阪市就学前教育カリキュラムを軸とした“園内研修会”も、園長主導の下、行っている。また、各々が改めて日頃の保育に対する目標（ねがい）を意識しつつ保育を行う事が出来る様、日々の反省会の中で“気づき”をディスカッションし、互いに日頃の保育に活用することが出来る様な“学び”の機会を、日常的に設けた。来年度には、写真を通して保育の一コマから子どもへの理解をさらに深められる園内研修を行いたい。また、保育で取り組む製作について、毎月作品を見せ合い、ねらいに沿って工程を考えられているか、また、どんな導入をすれば子どもたちの意欲を湧き出すことができるか、互いに助言し合う機会も設けた。
・子どもたちの安全への教育	・園バスのない当園では、徒歩もしくは自転車での送迎が主であるが、その登園・降園時の交通マナーが例年の課題となっている。近隣の方や、地域の方たちへの配慮が必要となるので、その事に関しても、子どもたちへの指導、また、保護者の方への注意喚起も行ってはおり、ここ数年間は特段のご指摘は頂いていないが、今後も気を緩めず、引き続き指導・配慮を続ける必要がある。 登園、降園の際の歩道の確保（長時間に渡る際、園庭や教会側敷地内への駐輪の誘導）、また、子どもの道路への飛び出しに関しては、かなり減少したと思われるが、降園後、制服のままで公園や近隣地で遊ぶことに関しては、子どもたちに対しても、園と家庭とのけじめの点や、保護者に対しても当園の指導力不足という印象を与える事にもなり、地域に対しても良い影響とはならない為、この点も引き続き注意喚起を行っていききたい。 ・また、防災への取り組み、ことに災害に備えた防災マニュアルの見直しをはかり、保護者の方との連携をより確実に取ることが出来るよう工夫し、「引き渡しカード」また、保護者以外の方が来られた際にも迅速に対応できるよう、「引き渡し可能者名簿」も作成し、有事に備える様にしている。一斉送信連絡も有事の際に強いと言われているアプリケーション“LINE”仕様の様式を用いる事により安心・安全に運用出来る様にし、活用している。 ・毎年、火災による消防訓練や、地震による避難訓練も行ってはいるが、近年は大きな地震も多数あり、南海トラフ地震もいつ何時起こるか判ら